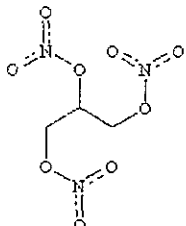
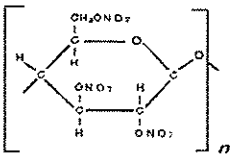
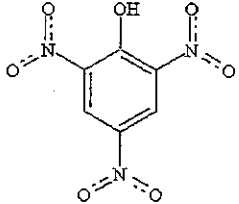


表示・文書交付対象物質に追加される危険物の概要

表示	文書交付	物質名	主な用途	製造・ 輸入量	危険有害性の概要	
					物理化学的危険性	健康有害性
○		エチルアミン $\text{H}_3\text{C}-\text{CH}_2-\text{NH}_2$	染料 医薬品 ゴム薬品 農業（除草剤） 界面活性剤 塗料	100～ 1000t	・極めて揮発し易く、熱、炎によって引火爆発性が高い。 ・酸化性物質と激しく反応して、NO_xを生じる。 ・爆発範囲 3.5%～14%	・皮膚・粘膜を激しく刺激する。
○		過酸化水素 $\text{OH}-\text{OH}$	漂白剤 酸化剤 発泡剤 医薬品 消毒剤	10万～ 100万t	・高濃度(65%以上)のものは、可燃性物質を発火させる。 ・白金、銀、銅等の金属粒子及び塩類、過酸化鉛、過酸化マグネシウムなどと接触すると爆発的に分解する。 ・低濃度(30%以下)でも、酸素を発生しながら分解する。	・25%以上の液が皮膚・粘膜に触れると、激しい炎症を起こす。 ・ACGIHで発がん性区分A3
○	○	次亜塩素酸カルシウム $\text{Ca}(\text{ClO})_2$	繊維漂白 消毒 酸化剤	1万～ 10万t	・分解すると酸素、塩素などを放出し、爆発する。	・皮膚を刺激し皮膚炎を起こし、呼吸器系障害を生ずる。 ・目に入ると激痛があり、角膜に潰瘍を起こす。
○	○	硝酸アンモニウム NH_4NO_3	肥料 硝酸塩製造 爆薬 オフセット印刷	1万～ 10万t	・加熱により分解し約200℃で酸素を放出する。 ・加熱、衝撃等により爆発することがある。 ・強酸類との混合物は衝撃により爆発する。 ・可燃物が混入したものは、発火しやすく、爆発することもある。 ・金属（亜鉛、アルミニウム、すず等）が混入したものは、発火しやすい。	・眼、皮膚、気道を刺激し、血圧低下を起こすことがある。
○		ニトログリセリン 	ダイナマイト ロケット推進剤 無煙火薬 医薬品	100～ 1000t	・わずかな衝撃・摩擦により爆発を起こす。	・皮膚に接触すると皮膚炎を起こす。 ・中毒症状は皮膚紅潮、動悸性頭痛を起こす。 ・大量暴露により意識を喪失する。 ・皮膚から吸収される。

○	○	ニトロセルロース  (トリニトロセルロース)	セルロイド 塗料原料 ラッカー X線フィルム 接着剤 マニキュア 蛍光灯原料 印刷インキ 無煙火薬 ダイナマイト	1000～ 1万t	・乾燥させたものは、衝撃、摩擦、加熱に対し、極めて敏感である。 ・密閉された場所では爆発を起こす。 ・加温により自然発火の危険性がある。 ・燃焼した際は二酸化窒素又は亜硝酸煙霧を生成する。 ・自然分解の傾向がある。	・粉末を多量に吸い込むと内臓障害を起こす。
○		ピクリン酸 	火薬 花火 塗料 農薬 含金属染料	100～ 1000t	・硫黄、ヨード、ガソリン、アルコール等と混合したものは、摩擦・衝撃により激しく爆発する。 ・単独では鈍感で、燃やせば黒煙を出して燃えるが、爆発することはない。 ・乾燥状態で強く打撃を加えると、爆発する。 ・銅、鉛、亜鉛と作用してピクリン酸塩を作ると、敏感で爆発しやすくなる。	・皮膚に接触すると皮膚炎、毛髪の黄変を起こす。 ・眼に入ると結膜炎、角膜炎を起こす。 ・粉じんの吸入、飲下しまたは皮膚吸収により、頭痛、めまい、けいれん、胃腸障害を起こす。
○		1,3-ブタジエン $\text{H}_2\text{C}=\text{CH}-\text{CH}=\text{CH}_2$	合成ゴム (SBR) 合成樹脂 合成繊維	約100万t	・液体は極めて引火しやすい。 ・酸化剤と接触すると発火するおそれがある。 ・空気に触れると爆発性の過酸化物を生成し、爆発するおそれがある。 ・爆発範囲 2.0%～12.0% ・強い重合性があり、重合爆発する可能性がある。	・濃厚なガスは麻酔作用を示す。 ・皮膚・眼・鼻の粘膜を刺激して炎症を起こすことがある。 ・日本産業衛生学会では発がん性第1群、ACGIHでは発がん性A2に分類される。

注1 表示対象物質として追加される危険物は8物質であり、すでに文書交付対象物質である5物質を除いた3物質が文書交付対象物質に追加される危険物となる。

注2 主な用途、危険有害性の概要については、中央労働災害防止協会「化学物質の危険・有害性便覧」より抜粋。

注3 製造等の取扱い量は経済産業省「化学物質の製造・輸入に関する実態調査（H13）」、「化学工業統計月報（H17）」による。